

2014年 **11**月 **29**日 (土) 13:00-17:00

主 催：日本建築学会建築歴史・意匠委員会 近代建築史小委員会

会 場：京都工芸繊維大学 3号館 0313 講義室 (京都市左京区松ヶ崎橋上町)

定 員：60名

シンポジウム「近代建築史研究の最先端」第10回

近代(日本)×近代(西洋) - アメリカのモダニズム ライトからの展開

■ 2008年度より開催してきた連続シンポジウム「近代建築史研究の最先端 近代(日本)×近代(西洋)」は、日本近代と西洋近代の研究者をお招きし、直接の研究対象はそれぞれ異なるものの、両者に共有され得る問題意識を探ることで、近代建築史研究の方法論を再検証することを目的としてきた。

これまで西欧のモダニズムを国別、エリア別に取り上げて、「機能」「構成」「ローカリティ」などの共通テーマを設け、文化交流史的視点も組み込みながら日本の近代建築との影響関係を多角的に検討してきた。今回はアメリカのモダニズムに焦点を当て、この分野の近年の研究成果を披露いただきながら、近代建築史研究の新たな諸相をめぐって相互に意見交換する場としていきたい。

第1部はフランク・ロイド・ライトの建築と思想、またその日本への影響についてあらためて取り上げていく。ライトによる「自然探求」と建築との関わり、独自の空間生成のプロセスについて、一方で、日本の近代建築への影響関係を再度振り返りながら、これまでとは異なる角度からライトの建築を読み解いていきたい。

第2部は、ルドルフ・シンドラー、リチャード・ノイトラなどおもにアメリカ西海岸を舞台に活躍した建築家たちを中心に、アメリカの近代建築の特殊性に目を向けていこうと思う。理念としては「インターナショナル・スタイル」の成立に大きく貢献したという側面をもちながら、一方では気候・風土など個別的条件への取り組みも欠かすことができなかった。こうしたアメリカのモダニズムの、いわば地域主義的側面に光を当てていきたい。

■ プログラム

1. 主旨説明 (13:00～13:10) 西澤泰彦 (名古屋大学)
2. 各論発表 (13:10～15:20)
Part I：フランク・ロイド・ライト再考 (13:10～14:20)
 - 1) フランク・ロイド・ライトの建築と思想―「自然・探究」と空間生成のプロセス 水上優 (兵庫県立大学)
 - 2) フランク・ロイド・ライトの日本への影響―戦前期における展開をめぐって 井上祐一 (文化学園大学)

モデレーター： 梅宮弘光 (神戸大学)

Part II：アメリカのモダニズム (14:30～15:40)
 - 1) ルドルフ・シンドラーの空間構成理念とその手法 末包伸吾 (神戸大学)
 - 2) アメリカのモダニズムと地域主義 玉田浩之 (大手前大学)

モデレーター： 笠原一人 (京都工芸繊維大学)
3. パネル・ディスカッション―アメリカのモダニズム ライトからの展開 (15:50～16:50)
司 会： 田所辰之助 (日本大学)
パネリスト： 各論発表者
内田青蔵 (神奈川大学)
4. まとめ (16:50～17:00)

□ 参加費：会員 2,000円 会員外 2,500円 学生 1,000円

□ 申込方法：Web 申し込み

<https://www.aij.or.jp/index/?se=sho&id=905> より

お申し込みください。

□ 申込先：日本建築学会事務局

研究事業グループ 一ノ瀬

E-mail: ichinose@aij.or.jp

Tel: 03-3456-2051